

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」天童校			
○保護者評価実施期間	2024年11月15日 ～ 2024年12月10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51名	(回答者数)	50名
○従業者評価実施期間	2024年11月15日 ～ 2024年12月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月11日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別対応、マンツーマンでの療育。一人ひとりの個性や特性を生かし、様々な支援を通して自己肯定感を高め、発達・成長を助長する支援を行っている。	児童の状況を多方面から把握・理解したうえで、一人一人に応じたプログラム作成、支援内容、実施を行っている。	楽しい支援内容に繋がるために、工夫やアイデアを出し合いながら職員同士が情報を共有し努力している。職員間の専門性を高めるために、積極的に研修や学習会、相談会などに参加している。
2	保護者様と毎回顔を合わせ、当日の様子と今後の支援などをお伝えするフィードバックの時間を設けている。ご家庭や園または学校での様子を共有でき、支援に活かすことができている。	支援内容は、保護者様のご要望と本人の興味関心を合わせながら、目標に向かって成長して行けるよう支援内容や課題、教材などを工夫している。	保護者様のご要望を踏まえつつも、ご利用者側の気持ちや特性の正確な分析を心掛け、ご利用者様が楽しく取り組める支援内容にしていける。
3	保護者様との関りや悩みに寄り添う。	送迎時に活動の様子をお伝えしたり、実際に療育現場を見て頂きながらお話をお聞きしたり、相談を受けやすい雰囲気作りに努め、悩みに寄り添っている。	保護者様に寄り添ったお話ができるよう努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご利用希望の方が多く、新規の方がなかなかご利用ができない場合があること。	特に早期の療育の大切さを知っていただき、年齢が低いときから支援させていただけるよう周知活動を行っている。	これまで通り、保護者様にもご利用者様にもあたたかい環境を提供していきたい。成長し、無事卒業を迎えられるよう支援に力を入れ、空きが出たところをスムーズにご提供できるようにしていく。
2	保護者会なども保護者同士の交流	現在ご要望は無いが、今後あった場合に必要に応じて考えていく。	保護者様に負担にならないような交流を考えていきたい。
3	地域との関わり	個別療育を基本とした支援形態のため、機会をなかなか設けていなかった。	必要に応じて、どのようなことであれば可能か検討していきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「クラ・ゼミ」天童校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 51

回収数 50/51

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32	15	0	3	体を動かすには狭い。	ご不便をおかけして申し訳ございません。基準を満たしている施設ではありますが、活動によっては狭さを感じることもあるかと思います。活動内容を工夫するなど心地よく安全に使用できるよう努めてまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	46	2	0	2	・定員がいっぱいであれば、職員を増やすことでもっと受け入れができないのか。 ・資格を持っている方々であるための確かな対応をいただいていると思います。	施設で受け入れられる人数が定められておりますので、定員を超えてお預かりすることはできませんが、定員の範囲内で必要な方へ支援がご提供できるよう努めてまいります。 ・ありがとうございます。日々専門性を高められるよう努めてまいります。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	44	3	1	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	47	2	0	1		
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	49	1	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	45	2	0	3		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	48	2	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	47	2	0	1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	48	2	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	46	3	0	1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	14	10	12	14	他児童との接触は少ない。	個別対応が多いことや時間帯の関係上、交流に出かける等は難しいのですが、小集団活動イベントなどを企画して必要に応じて交流を取り入れていきたいです。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	48	2	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	48	2	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	28	8	2	12	わからない。	周知が不足して大変申し訳ございません。専門的なペアレントトレーニングでは無いのですが、希望される保護者様へ母子通所を行い、その中で保護者様へのアドバイスを行ったり、家庭支援の視点で面談や相談の機会を設定しています。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	50	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	46	2	0	2		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	48	2	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	12	11	18	わからない。	コロナ禍以降保護者様を対象にした交流が自粛されていましたが、今後は必要に応じてイベントなどを企画して交流を取り入れていきたいです。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	44	2	0	4		いつでもお気軽にお声がけください。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	45	5	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	42	4	1	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	44	4	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	39	2	1	8	わからない。	定期的に必要研修・訓練を行っており、玄関先に写真付きの訓練報告書を毎回掲示させていただいておりますが、ご送迎が保護者様以外の方もいらっしゃるため、通信などでもお知らせするなど周知の工夫をしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	39	3	1	7		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	46	2	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	35	6	0	9	けがの経験が無いためよくわからない。	けがの発生がほぼありませんが、状況発生時には、職員皆で連携しスムーズに医療機関へ繋げる等適切な対応をさせていただきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	49	1	0	0	親子ともども安心して通うことができます。	ありがたいお言葉をありがとうございます。今後も安心できる環境をご提供できますよう努めてまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	49	1	0	0	とても楽しみにしています。いつもありがとうございます。	ありがたいお言葉をありがとうございます。今後も楽しみに通っていただけるよう努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	48	2	0	0	・とても満足しています。（複数） ・とても肯定的に見てくださり、本人の力になっています。いつも優しく接して下さり感謝申し上げます。 ・励ましていただきながら学ばせていただき、頑張っているのがありがたい。 ・空いた時間を迅速に案内してもらい助かっています。	ありがたいお言葉をありがとうございます。今後もたくさんの方に、良い療育がご提供できますよう、精一杯努めさせていただきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「クラ・ゼミ」天童校		公表日		2025年 2月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		机の位置やパーティションで空間を区切るなどして工夫している。	支援スペースをできるだけ広く使えるように今後も工夫していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建物の構造上完全バリアフリーは難しいが、できる限りの環境上の配慮を行っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員同士もアイデアを出し合ったり、お互いに相談等しやすい環境になっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者に代わり、内部監査（社内）を徹底しており、実地指導にも積極的に対応している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		全体の定例研修の他、他校舎と定期的に事例検討や支援相談会などを行っている。	今後も積極的に参加していく。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		経験の長い指導員を中心に、チームで支援についての共有や話し合いを行っている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		決まった時間では無いが、支援の空き時間を利用して必ず情報共有や引継ぎ等を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援時間や就業時間の都合上、急ぎの要件以外は翌日以降に必ず情報提供している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には児発管が参画しているが、人員が確保できている場合には、担当指導員が参加することもある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療機関の先生主催の研修を受けたり、教育委員会主催の教職員対象の研修に参加させていただいている。また、相談支援事業所や保護者様を通して、情報共有などの連携を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校から直接と言うよりは、保護者様を通じてお聞きすることが多い。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		施設職員との情報共有などは必要に応じてできているが、児童同士の交流となるとなかなか機会が無い。	地域の園などに参加できたり、イベント等を行わせていただくことが可能であれば積極的に行いたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会へ向けての意見集約の場である市の放課後等デイサービス連絡会や担当者会議等に参加している。	今後も積極的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援終了時の限られた時間でのフィードバックだけでは難しいので、保護者様との面談を行ったり、お電話・メール・文書を利用して情報共有し共通理解に繋げられるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		専門的なペアレントトレーニングでは無いが、希望される保護者様へ母子通所を行い、その中で保護者様へのアドバイスをしたり、家庭支援の視点で面談や相談の機会を設定している。	今後もできる限りご提供していく。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			コロナ禍で自粛していたママカフェを復活していくことなど、機会や必要性があれば積極的に行いたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		小集団活動の際など、保護者様同士で交流を図っている。ホームページログの更新、通信の発行、Instagramを活用した情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報については保管を徹底している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		利用者や保護者様が開催のNPOイベントに参加している。	機会や必要性があれば積極的に行いたい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			